神戸市立博物館　特別展

テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本

2024年６月22日（土）～８月25日（日）

芸術だより

神戸市立博物館
学芸員　鈴木 更紗

人類史上、屈指の繁栄を極めた古代ローマにおいて、こよなく愛されたのが公共浴場であるテルマエです。『ローマ十四区総覧』によれば、４世紀のローマ市には大規模なテルマエが11軒、小規模な入浴施設が約900軒あったといわれています。

大規模なテルマエは皇帝たちによって建設されました。世界遺産にもなっているカラカラ浴場は、1,600人を同時収容できるほどの規模を誇っていましたから、上下水道の整備や燃料の確保など多大なコストがかかったことでしょう。それでも、入浴料は庶民が毎日通うことができるほど安価でした。皇帝たちはテルマエの建設、維持によって、大衆の支持を獲得したのです。

テルマエには、熱浴室や冷浴室、サウナ風呂などの入浴施設のほか、運動場や図書館、広間などが併設されていました。テルマエでは、身体を洗うだけでなく、食事や音楽、朗読会などさまざまな娯楽に興じることができたのです。また、テルマエはモザイクや大理石彫刻などで飾られており、大衆が美術品を間近にみることができました。テルマエは古代ローマの豊かさを象徴する文化施設だったのです。

一方、日本でも古代から入浴がおこなわれていました。仏教寺院内に入浴施設がつくられるほか、戦国時代には戦乱の傷を癒すために温泉が用いられました。

江戸時代に銭湯が登場すると、庶民にまで入浴文化が広まっていきます。旅の一般化にともない湯治客も増加しました。近代には、鉄道網の整備などに伴い、観光目的で温泉地に訪れる人も増加します。日常の入浴は内風呂へシフトしていきますが、温泉や銭湯、内風呂などが共存した多彩な入浴文化が、今に引き継がれています。

私たちのくらしに欠かすことのできないお風呂。本展を通じて、ローマと日本2つの国の入浴文化を、体感していただければ幸いです。

ライオン頭部形の吐水口
1世紀　ナポリ国立考古学博物館
Photo © Luciano and Marco Pedicini

恥じらいのヴィーナス
1世紀　ナポリ国立考古学博物館
Photo © Luciano and Marco Pedicini

※この特別展はみなと銀行文化振興財団が助成しています。